

道徳学習指導案

1 主題名「誠実な行動と責任」

中心内容項目 1－(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。

関連内容項目 2－(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

2 主題設定の理由

(1) 価値について

わたしたちが人間として誇りをもって生きていくためには、自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが求められる。したがって、深く考えずに付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。中学生ともなると、何が正しく、何が誤りであるか、ある程度自主的に考え、行動することができるようになってきている。しかし、その反面、悪いと分かっているにもかかわらず誘惑に負れたり、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されてしまったりすることも少なくない。また、現代社会にあふれる情報の中から、何が正しく、何が誤りであるかを判断できず、利己的、自己中心的な情報を選んでしまうこともあり、自分自身にかかわる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということ进行深入に考えることができない面も見られる。

自我に目覚め、自己の確立を遂げようとする中学1年のこの時期だからこそ、学習指導要領における道徳の内容項目 1－(3)「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」態度を身に付けることは大変意義深いものと考えている。そこで、善悪や自分の行為が及ぼす結果について深く考える判断力と、責任をもって誠実に行動する実践力を高めるために、本主題を設定した。

また、具体的な生活の中で「誠実な心」をもって行動していくために、内容項目 2－(3)「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う」についても触れ、本当の友情とは何か、友達のためにどんな行動をとることが誠実であるのかを考えさせていきたい。

(2) 生徒観（男18名、女15名、計33名）

学級の生徒は全体的に明るく、素直である。中学校に入学して2か月ほどたった今、学校生活に慣れ、友達や先輩と協力して、勉強や部活動、委員会活動などに、意欲的に取り組んでいる生徒がほとんどである。しかし、少数であるが、自己中心的な考えから、仲間に協力せず、自分勝手な行動をとってしまう生徒もいる。集中しなければならない、協力しなければいけないと分かっているにもかかわらず、周囲の雰囲気や仲の良い友達に流され、誠実な行動がとれないことが見られる。

以前、同じ内容項目 1－(3)の授業を行った際、「周囲や友人の意見に流されず、自分の考えを貫くことができるか」と発問したところ、学級のほとんどの生徒が「よく流される」「流されてしまうことが多い」と回答し、「流されることはない」「自分の考えをきちんと貫ける」と回答した生徒は、わずか5名であった。自分が正しいと思うことを貫くのが大切である、ということが分かっているが、それを主張すること、その考えに基づいた行動を起こすことは難しいと感じているようである。

3 資料について

(1) 資料名「裏庭でのできごと」

出典 中学生の道徳 1年 自分を見つめる

出版 廣済堂あかつき株式会社

作者 文部省資料作成協力者会議 編

(2) 資料の活用

本資料をとおして、自分で善悪を判断し、誠実な行動をとることの大切さを、改めて実感させたいと考える。これからの実生活の中で、何が正しく、何が誤りであるかを、生徒自らが正確に判断し、その判断に基づいて誠実に行動する力を身に付けてほしい。そのために、本時の指導にあたっては、誠実な行動をとることの大切さや良さに気づき、自らを振り返る時間とするために、次のような手だてを取りたい。

まず、資料の提示の仕方を工夫する。本資料では三人の男子中学生が登場する。主人公健二はガラスを割ってしまうが、友人の言い訳の口車にのって、先生に事実を言えずにいる。しかし、悩みながらも最終的には自己の良心に忠実に行動し、自ら事実を話しに行く姿が描かれている。はじめに最後まで資料を読ませると、健二は自分の信念に誠実に行動できてよかった、という結果が明らかになってしまう。この授業では、正しいことは分かっているが、それを行おうとすると、友情に傷がつくかもしれない、という主人公の葛藤に共感させたい。そのために、資料を前後半の二部に分けて配布し、それぞれの登場人物の配役を決め、登場人物になりきってセリフの部分を音読させる。そして、ガラスを割った直後、ごまかして言い訳をしたとき、先生に正直に報告せず黙っているとき、それぞれについて、登場人物3人の、三者三様の考え方・感じ方について考えさせたい。特に、正義と友情のはざまでの悩み、葛藤する健二の姿を通して、このようなことは、私たちの生きる現実の社会の中でも起こりうることに気付かせる。また、同じような場面に遭遇したときに、どういう行動をとるべきかを考えることで、自主的な判断と責任ある誠実な行動の大切さを実感させたい。

また、学級全員を話し合いに参加させ、意見を述べやすい雰囲気を作るため、教室の机の配置を工夫する。すでに学級活動や道徳の時間にも取り入れている学習形態であることから、活発な話し合いが行えるものとする。また、小グループでの話し合いの場も取り入れ、全員が参加し、全員で作り上げる授業を目指したい。

(3) 資料分析表 (別紙)

4 指導のねらい

自分の行動が及ぼす結果を深く考え、責任をもつことのできる誠実な行動がとれるよう判断力を高めさせる。

5 研究主題との関連

本校では道徳の時間において、年間指導計画に基づき、計画的、発展的な指導を通して、人間としての生き方について内面的な自覚を深めさせ、道徳的実践力を育てることを目標としている。また、本校の研究主題「自ら学ぶ力を高める指導の工夫―「書く」活動を通して―」に迫るため、自己を見つめ、他と深くかかわる力が身に付く授業展開を工夫するよう努めている。このことを踏まえ、本時においては、次のような指導の手だてを工夫する。

(1) 学習課題の工夫

文章を「書く」ことによって自分の考えをまとめる手助けとする。そのために自分の意見を口頭で述べる前に、ワークシートを用いて、主人公の心情についてセリフの形で記述させる。「書く」活動を通して自分の考えが明確になり、次の発表に生かせるものとする。

(2) 発問・指示の工夫

主人公の心情に迫るとともに、自己の内面と向き合うような発問・指示を行い、個人でゆっくりと考える時間を保証したい。

(3) 学習形態の工夫

一斉、コの字型の座席、小グループ、個人など、場面に応じて学習形態を変えることで、生徒の学習効果を高めるようにしたい。

(4) 振り返り、表現・発表の場の工夫

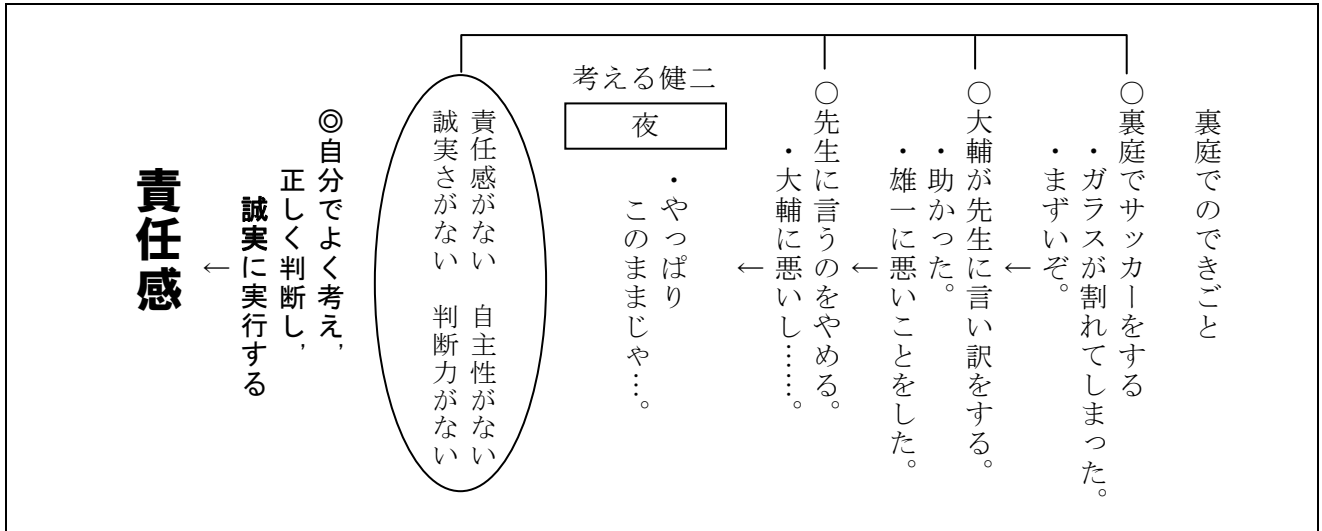
登場人物の心情に迫るため、役割演技で音読させる。また、全体の場での発表を苦手としている消極的な生徒も、自分の意見が発言できるよう、小グループでの活動を設定し、発表のさせかたを工夫する。

6 指導過程（別紙）

7 評価

- (1) 他の意見に左右されず、物事をよく考えて正しく判断していこうとする意欲を高めることができたか。（発表・ワークシート）
- (2) 自己の行動の結果について深く考え、正しく判断し、責任をもって誠実に行動していこうとする態度を養うことができたか。（発表・ワークシート）

8 板書構造



9 準備物

ワークシート・生徒配布用資料（前後半に分けたもの）・役割演技者用資料（前後半に分け、セリフを明示したもの）・板書用図絵

10 資料（別紙）

- ①ワークシート
- ②役割演技者配布用資料（前半）（後半）
- ③一般生徒用配布用資料（前半）（後半）

6 指導過程

	主な学習活動	指導上の留意点	学習形態	評価 ★C生徒への手だて
導入 5分	1 これまでの自分の生き方を振り返り, 誠実な行動について考える。	1 これまでの自分の言動や, 友人との付き合い方について振り返らせる。誠実な行動とはどんなものか考えさせる。 ・正しいと分かっているが, そう言えなかったことや, 間違っていると知りながらついでしてしまったことがある。	一斉	
展 開	2 前半の資料を読む。	2 資料を音読する。 ①資料(前半)を配布する。 ②健二・大輔・雄一の配役を決め, 地の文は教師が読むことを伝える。意欲的に音読に取り組める生徒を指名する。 ③役割演技で音読する。	一斉 (コの字)	
	3 それぞれの場面での三者三様の感じ方を考える。 健二・大輔・雄一は, それぞれの場面で, どんな気持ちだったのだろう。	3 ごまかして言い訳をしたとき, 先生に正直に報告せず黙っているとき, それぞれの登場人物の三者三様の感じ方を考えさせる。 ①ワークシートの吹き出しの部分に, 登場人物になったつもりでセリフを書き込ませる。 ・大変なことになってしまった。まずいぞ。 ・このまま黙っているのはよくない。でも, 本当のことを言ったら大輔が… ②グループで交流させ, お互いの考えの違いや共通点を知らせる。	個人 グループ	
	4 後半の資料を読む。	4 資料を音読する。 ①資料(後半)を配布する。 ②前半で配役した生徒と共に音読する。	一斉	
	5 健二の心情の変化をとらえる。 職員室に向かう健二は, どんなことを考えていたのだろう。	5 職員室に向かう健二は, どんなことを考えていたのか, 考えさせる。 ①ワークシートの吹き出しに登場人物になったつもりでセリフを書き込ませる。 ・このままではだめだ。やはり本当のことを言うべきだ。 ・自分に正直でありたい。 ②全体で意見交流し, 大輔のことを思うと心の葛藤はあるが, 自分でよく考え, 自分の判断で, 誠実に行動を起こすに至った健二の心の変化をつかませる。	個人 一斉	人の意見に左右されず, 物事をよく考え判断していこうとする意欲的な発言や記述がある。(発表・ワークシート) ★自分なりの考えでかまわないことを伝え, セリフを記入させる。
	6 健二に欠けていたもの考える。 このような事態を招いた昨日までの健二に, 足りなかったものは何だろう。	6 これまでの健二に欠けていたものを考えさせる。 ・大輔の言いなりだった。 ・自分の考えで行動していなかった。 ①自由に意見を述べさせ, そもそも禁止されている裏庭でサッカーをしたことが, 思慮に欠けている点に気付かせる。 ②自分でよく考え, 自分で判断し, 誠実に実行して結果にまで責任をもつことが大切であることを考えさせる。	一斉	自己の行動の結果について深く考え, 正しく判断し, 責任をもって誠実に行動していこうとする態度を養うことができたか。 (発表・ワークシート) ★このような結果を招く原因となった行動について考えるよう助言する。
	35分			
終結 10分	7 授業の感想を書く。	7 三人はそれぞれ, どんな行動をとることが望ましかったのか文章化してまとめさせる。 ※三人の反省点を文章にして考えることで, 価値の自覚を深めさせたい。	個人	

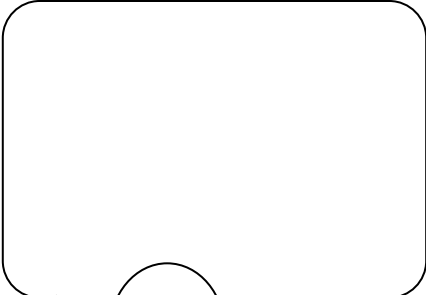
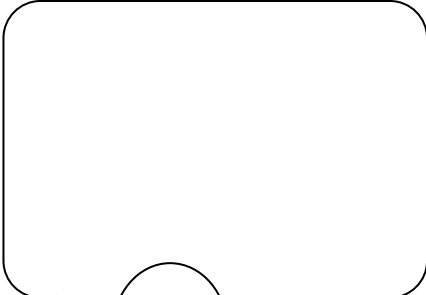
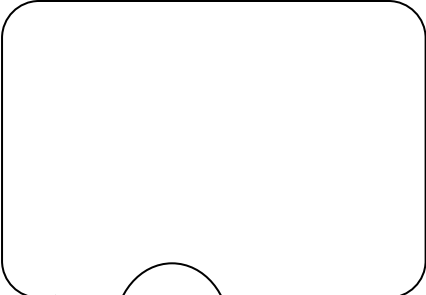
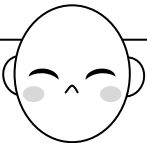
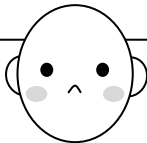
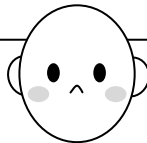
3 (3) 資料分析表

主 題 名	誠実な行動と責任	内容項目	1－(3)
資 料 名	裏庭のできごと	作 者	文部省資料作成協力者会議 編
ね ら い	自分の行為が及ぼす結果を深く考え、誠実に責任を持つことのできる行動がとれるよう判断力を高めさせる。		
	[主な場面]	[主人公の行動と心の動き]	[価値と関連]
	裏庭でサッカーをしようと誘われる。	裏庭はまずい。でも、サッカーはやりたい。	1－(3)
	鳥を助けるために雄一がガラスを割り、先生の所へ行く。	びっくりした。大変だ。でも、鳥を助けるようとしてやったことだから……。	
	大輔に誘われ、サッカーをして、もう一枚ガラスを割ってしまう。	大変なことになってしまった。まずいぞ。	
	大輔がうまく言い訳をして先生をごまかす。	本当は違うのに。いいのか？雄一に悪いなあ。	1－(3) 2－(3)
	雄一にずるいと責められる。	やはり、雄一に申し訳ない。	
	大輔に本当のことを言わないよう念を押される。	たしかに、黙っておいたほうがいいな。でも……	
	本当のことを言うべきかどうか悩む。	このまま黙っているのはよくない。でも、本当のことを言ったら大輔が……。	1－(3) 2－(3)
	決心して先生の所に行く。	このままではだめだ。やはり、本当のことを言うべきだ。	1－(3)
			大輔が二枚ともひなを助けるために割ったと先生に言ったとき、健二はどう思っただろう。
			次の日登校するまでに、健二はどんなことを考えていたのだろう。
			職員室に向かう健二は、どんなことを考えていたのだろう。
			このような事態を招いてしまった昨日までの健二に、足りなかったものは何だろう。

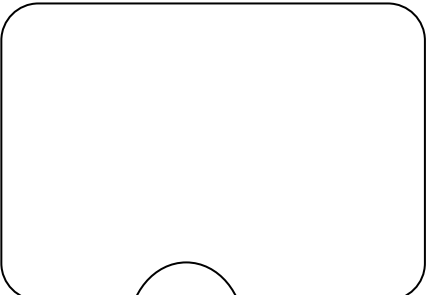
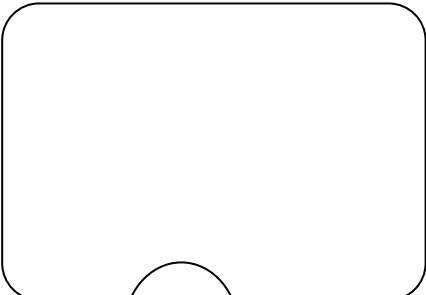
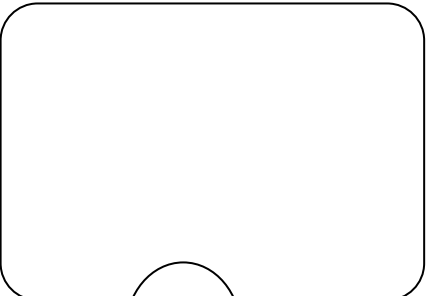
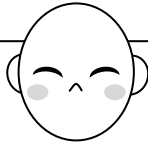
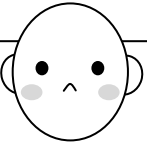
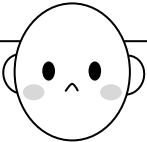
道徳ノート 「裏庭でのできごと」

1年3組	番	氏名	
------	---	----	--

○ごまかして言い訳をしたとき、3人はそれぞれどんな気持ちだったのだろう。

		
 大輔	 雄一	 健二

○正直に報告せず、黙っていたとき、3人はそれぞれどんな気持ちだったのだろう。

		
 大輔	 雄一	 健二

○職員室に向かう健二は、どんなことを考えていたのだろう。

	
--	---

今日の感想 3人はそれぞれどんな行動をとればよかったのだろうか……？

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
